



第 32 回



ごはん・お米と わたし

作文・図画コンクール入賞作品集



農林水産大臣賞 図画2部 「ザク、ザク、ザク、早く食べたいなあ〜」

山形市立南小学校5年 會田 次郎さん

平成20年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部

第32回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

全国審査における入賞者

○文部科学大臣賞

(作文 1 部) 金野 華奈 鶴岡市立羽黒第三小学校 3年

○農林水産大臣賞

(図画 2 部) 會田 次郎 山形市立南小学校 5年

○全国農業協同組合中央会会長賞

(作文 2 部) 高橋 理久 村山市立戸沢小学校 4年

○優秀賞

(作文 3 部) 佐藤 楓 鶴岡市立第五中学校 1年

(図画 2 部) 花山 伶奈 寒河江市立醍醐小学校 5年

(図画 3 部) 堀野 佑衣 山形市立第九中学校 3年

○学校奨励賞

鶴岡市立羽黒第三小学校

山形市立南小学校

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 瀬川 隼矢 庄内町立余目第四小学校 3年
山形県農業協同組合中央会会長賞 後藤 怜 最上町立向町小学校 1年
優秀賞 渡部 寿彦 鶴岡市立斎小学校 1年
笠原妃奈乃 最上町立大堀小学校 1年
伊藤南奈美 鶴岡市立朝日小学校 1年
結城 諒 最上町立満沢小学校 2年
佐藤麻捺夏 鶴岡市立羽黒第二小学校 3年

●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 河野 美波 鶴岡市立栄小学校 5年
山形県農業協同組合中央会会長賞 上野 艦 鶴岡市立斎小学校 5年
優秀賞 五十嵐春奈 最上町立向町小学校 4年
阿部紗世子 最上町立月楯小学校 6年
菅 凧沙 最上町立満沢小学校 6年
引地加奈恵 最上町立大堀小学校 6年
齋藤 央奈 山形大学附属小学校 6年

●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 佐藤 楓 鶴岡市立第五中学校 1年
山形県農業協同組合中央会会長賞 山口 和華 天童市立第二中学校 3年
優秀賞 櫻井 祥太 山形市立第五中学校 1年
山口 愛実 南陽市立吉野中学校 2年
久保 朝香 米沢市立第七中学校 2年
橋本明香里 山形市立第五中学校 2年
伊藤 香理 鶴岡市立朝日中学校 3年

●学校奨励賞

最上町立向町小学校

鶴岡市立第五中学校

図画部門

●1部 (小1年～3年)

山形県知事賞 佐藤 永一 尾花沢市立牛房野小学校 1年
山形県農業協同組合中央会会長賞 森谷 康平 山形市立出羽小学校 3年
優秀賞 三澤 悠花 尾花沢市立名木沢小学校 1年
鈴木 芹奈 鶴岡市立大泉小学校 2年
本間 智広 尾花沢市立鶴子小学校 2年
押野 尚道 鶴岡市立朝暘第二小学校 3年
吉田 周平 尾花沢市立尾花沢小学校 3年

●2部 (小4年～6年)

山形県知事賞 花山 伶奈 寒河江市立醍醐小学校 5年
山形県農業協同組合中央会会長賞 伊藤 浩司 鶴岡市立朝日小学校 5年
優秀賞 森 謙太 尾花沢市立明德小学校 4年
原田 紘 高島町立屋代小学校 4年
菅野 静香 尾花沢市立寺内小学校 5年
杵澤 佑樹 山形市立第十小学校 6年
丸田 駿平 尾花沢市立玉野小学校 6年

●3部 (中1年～3年)

山形県知事賞 堀野 佑衣 山形市立第九中学校 3年
山形県農業協同組合中央会会長賞 垂石 杏 山形市立金井中学校 1年
優秀賞 羽角 栞 山形市立金井中学校 1年
島津 桃子 米沢市立第四中学校 2年
石井 志織 山形市立金井中学校 2年
橋本明香里 山形市立第五中学校 2年
中村 実那 山形市立第九中学校 3年

●学校奨励賞

寒河江市立醍醐小学校

山形市立金井中学校



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会

会長 遠藤芳雄

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さんに、心から御礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

三十二回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文三八五点、図画九三三点もの力作を応募いただき、全国コンクールにおいて、作文一部で文部科学大臣賞、図画二部で農林水産大臣賞、作文二部で全国農業協同組合中央会会長賞を受賞するという素晴らしい成績を修めました。また、県コンクールにおいても、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞をはじめ各賞を選考いただいたところです。これは、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と心から感謝申し上げます。

このコンクールは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業と、ごはん食と健康の結びつきを見直してもらい、稲作農業を通して人々とのコミュニケーションをはかっていただくために実施しております。

今回の皆さんの作品は、身近な人とかかわり合いの中で、自分の生活をしっかりとみつめ、家族への思いやり、家族や友達と食べるごはんのおいしさ・うれしさを感じたことが伝わってくるものでした。また、ごはん食や実体験を通して、稲作農業の果たす役割の大きさを知ったことなども、素直に表現されていました。

これからも、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦労や努力を感じ、感謝の気持ちを忘れないでください。

また、家族を大切に作る心、自然を大切に作る心、生き物すべての命を大切に作る心を育み、いつまでも持ち続けてください。さて、日本が経済大国といわれるようになって久しいですが、豊かな生活の中で、多くの大切なものを失いつつあります。生活の面からみると食料自給率は今年、ついに四〇%を割り込み、三九%となりました。これは先進国の中では最低の水準にあり、いざという時、食べ物が足りなくなるとい状況が心配されます。また、朝食を食べないなど、特に若い世代を中心とした食習慣の乱れや栄養バランスの偏りが見受けられ、これらは生活習慣病の増大や、命を軽視した事件の多発化につながり、大きな社会問題となっております。

こうした中、私たちJAグループは、引き続きお米を中心とした日本型食生活の推進と、小・中学校をはじめとする地域の特徴を生かした食農教育に取り組んでまいります。

また、日本人の主食である米をはじめとして、国内で生産できる食料は国内で生産することを基本に、皆様に安全・安心な農畜産物を提供できるよう、より一層の努力をしてまいります。

最後に、皆様のご協力により、当コンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。